

西宮市社会福祉審議会

令和6年度第3回 児童福祉専門分科会

会 議 録

- 開催日時 令和6年10月15日（火） 午前10時15分～
- 開催場所 西宮市議会 4号委員会室 （市役所本庁舎議会棟3階）
- 出席者
 - ・委員：梶委員、北岡委員、上月委員、瀧野委員（職務代理）
一色委員、宮本委員
 - ・事務局：伊藤こども支援局長、小島子供支援総括室長
岡田子供支援総務課担当課長（計画推進）、中塚子育て支援部長
三柘子供家庭支援課長、新田子育て総合センター所長
園田保健所副所長、浦岡地域保健課長、秦学校教育部長
小濱学校保健安全課長

会議次第

審議事項

第3期西宮市子ども・子育て支援事業計画の素案について

会議概要

〔午前10時15分 開会〕

才村会長及び曾田副会長が欠席のため、瀧野委員が職務を代理する。

審議事項

第3期西宮市子ども・子育て支援事業計画の素案について

○職務代理 資料2の40ページの（8）について、要保護児童対策協議会の説明や、

23ページの「3. 本計画の推進にあたって」は、とても見やすく、また分かりやすい感じが伝わってきたため、良いと思う。

次に、前回の審議会の中で子ども・子育て支援事業の広報について、●●委員、●●委員から、「せっかくいろんな事業が実施されていても、その情報が市民に届いていないのではないかと。必要な情報が必要とする人にきちんと届くようなPRの工夫を工夫すべきではないか」というご意見を頂戴した。お二人のご意見は大変重要である。事業計画に盛り込むべき性格の課題ではないと思うが、事業計画の周知と利用促進という観点から少し議論をしておいたほうが良いと思うので、この機会に意見交換をしたい。

○委員 子育てをしている方々に、いかに情報を届けられるかが非常に大事なことである。その届け方について、今ある手法以外の新たな手法を考えていく必要があると思う。

現在、市はLINEでプッシュ型の情報提供を行っているが、LINEを登録しなければならぬハードルがあり、ここをまず乗り越えることが必要である。また、私自身も何が一番良いのか分からないが、もう少しSNSをより若い人たち向けの最新の方法に変えていかないと、情報が届かないと思っているため、しっかり研究していかなければならない。

子育てコンシェルジュの皆さんは、子育て世代の方に会う機会も多いため、子育てひろば等に来る保護者の方に対して、どのように情報提供すれば一番良いのか聞き取りをしてもらうことで、情報の入手方法が見えてくるのではないかと。

○事務局 子育てひろば等に来る保護者の方から聞き取った意見は参考になると思う。子育てコンシェルジュに呼びかけて、意識して取り組んでいきたい。

○委員 ぜひ積極的に取り組んでいただきたい。他にどのような手法があるのか、皆さんのお考えがあればお聞きしたい。

○職務代理 市のLINEによる情報提供は効果大きい。ネットでないと情報が届かない。このような制度を使いたいという、自ら情報を取りに行ける人は問題ないと思う。一方で、それを全く見ずに孤立している方が最も虐待の懸念となっているケースを何度か経験している。そのような人たちに向けて、市は安心できる場所であるとか、市役所に行けば力になってくれるというイメージを、どのようにすれば持ってもらえるのか。

市役所はたらい回しにされるイメージを持っている人も、子育てコンシェルジュが本当に親身になって聞いてくれるとなれば、変わることもある。そのつなぎ役が非常に大事なのかなと思うため、成功例があれば教えてほしい。

○委員 私は地区の社会福祉協議会（以下、社協）の会長をやっている。一番悩ましい点が、自治会に加入している方は、回覧板などで情報が届きやすいが、未加入の方にはどのように届けばいいのかということである。回覧板を回している自治会に入っている方でも、回覧板を読まずに次に回すこともある。やはり全戸配布をして紙が家に残る形でないと、なかなか情報が伝わらない。そのため自治会関係に関しては必

ず全戸配布している。

隣の地区の社協の場合は、ボランティアの方が全戸にポスティングしている。また、お金をかけてポスティングしているところもある。

高齢者実態把握調査の際に、民生委員・児童委員の方に配布をお願いするなど、とにかく残るものを配れたら一番良いと思うが、なかなか難しい。

私はY o u T u b eをよく見るが、更新回数が多いと頻繁に見る一方で、何か月前の情報となると見なくなる。例えば、子育てコンシェルジュが、「こんな場所でこんなことをした」という10秒や20秒の短い動画を発信することで、少しずつ見る人が増えてくるのではないか。ただし、載せられる部分と載せられない部分を精査していくことに時間がかかれば情報が古くなっていく。SNSの一番いいところは、ライブ配信である。事前に許可を得たうえで、講習会の様子をライブ配信したり、すぐに写真を投稿したりするなど、SNSの即時性という魅力を活用すべきである。市の取組や相談内容などを地道に発信していくことで、市に相談に行けば聞いてもらえるイメージになるのではないか。

○職務代理 SNSを使った最新の取組と全戸配布などの地道な取組の2本立てが必要である。SNSの更新頻度について市の決まりは何かあるのか。

○事務局 子育て総合センターではLINEの配信を行っている。子育てに関する情報を、庁内の様々な課から依頼され、比較的毎日のように配信することもある。

一方で、市のホームページに掲載している内容については、各課が考えて掲載しているため、更新頻度はそれぞれ異なる。

○委員 これまで、健やか赤ちゃん訪問は民生委員・児童委員が各家庭を回っていたが、現在は市が事業者に委託して回ってもらっている。民生委員・児童委員が回っていたころは、1人当たり月数件であったが、今は委託先の5人ぐらいの方が多くの家庭を回っている。

そのため、生後5か月ぐらいになって訪問する場合もある。その間の子供に関する悩みについて、SNSを見る方はいいが、全く見ない方もいる。市の子育て総合情報誌である「子育てガイド」を見る方もいるが、十分に読まない方もいる。そのため、今まで民生委員・児童委員が、個別に回っていたことが本当に良かったと思う。

どこにどういふ赤ちゃんが生まれたか、どういふ子供を抱えた方がいるのか、今は全く分からない。民生委員・児童委員は本当に地域の子供たちのことを気にかけているため、もう少しうまく活用してほしい。もっと子供のことをきめ細かにフォローしていけることがあったらと思うため、市でも考えていただけたらありがたい。

子育てガイドも毎年更新していると思うが、はじめにもらった後に新しいものをもたう機会がなく、古いものを持ったままになる。子育てひろばに来る方には、新しいものと差し替えてもらうように伝えることができる。子育てひろばに来ない方は虐待とまではいかななくても、困っている方もいると思うため、もう少しきめ細かく子供を見させてほしい。

○職務代理 小松地区も主任児童委員の方は、ずっと地域を回っている。地域の子供

を小さいときから見守ることは重要である。地域の子供が思春期になって不愛想になっても、「小さい頃から知ってるよ」という声掛けをしたら笑ってくれることもある。それが地域の良さだと思うため、西宮のどの地区にも地域の活動があることが広まればいいと思う。

○事務局 乳児家庭全戸訪問のときに「あなたの妊娠・出産・子育てサポートガイド」を配布しており、担当の地区保健師の名前や、最寄りの子育てコンシェルジュがいる場所、電話番号、最寄りの子育てひろばの場所などをお知らせしている。SNS以外でもこのような方法でお知らせをするようにしているが、どうしても当事者の方々の体調が悪いときには、お知らせをもらっていてもアクセスできないことがある。もしくは、自分が必要になったときに見ようと思って、その書類を置いたままにしてしまうケースもある。市としても周知に努めてはいるが、実際に情報が届き切らないという点は、課題として認識しているため、今後も努めていきたい。

○委員 広報の仕方について、唯一の正解はないと思う。確かめたわけではないが、県でも印刷媒体ではなく、SNSなどの情報発信が増えている感覚がある。

SNSの活用は、時代の流れだと思う。また、必要な情報が必要とされる方に届くことが一番大事である。SNSの掲載方法についても、例えば悩んでいる内容から、イエス・ノーでたどっていくと、このような制度がある。詳しくはここに相談してくださいといった形も必要かなと思う。

マンパワーの活用ということで、SNSだけで完結するのではなく、紙媒体で配布することも必要である。一概には言えないが、例えばご高齢の方が孫の子育てをしている場合など、SNSを活用しづらい場合もある。可能であれば紙媒体を全戸配布するやり方が一番良いと思う。「県民だよりひょうご」という兵庫県が出している広報がある。現在も実施しているか分からないが、例えば老人クラブにお願いをして全戸配布をしたり、その前はヤクルトの配達の利用したりという方法も聞いたことがある。マンパワーの活用と、SNSの活用、その2通りでやれば、100%ではないにしても、必要な情報が必要な方に一定届くのではないかなと思うため、事務局でも検討してほしい。

○事務局 ご存じだとは思いますが、市では「市政ニュース」という紙媒体を全戸配布している。基本的にお知らせしたいことは、市政ニュースに必ず載せている。当然紙として手に残るため、高齢の方から子育て世帯の方まで必要な情報が分かるようになっている。

ただし、全戸配布をしても読まない方もいる。ちなみに、市政ニュースは、読む・読まないに関係なく、ポストがあったら全て配布する。そこに例えば社協のお便りなども挟んでいる。実際に読んでもらえているかは非常に難しい。

若い世代は基本的に紙媒体を読まない。そこで、SNSやLINE登録を通じて情報を届けることを試みている。また、乳児家庭全戸訪問の際には直接お知らせをする努力もしている。しかし、情報を必要な人にどう届けるかは非常に難しい問題である。●●委員もおっしゃっていたように、これには正解がなく、何をすれば100%大

丈夫という保証もない。市としても、紙媒体が好ましい人とそうでない人がいることを考慮し、様々な方法を模索している。これは今後も課題となるだろうが、各所管が試行錯誤しながら取り組んでいる。もし良い案があれば教えてほしい。

○職務代理 私は市政ニュースは良いと思っている。以前、市政ニュースの正月号にあいみょんさんのコメントが掲載されたことがあった。そのときは子供たちが皆で回し読みをしていたので、やはり効果があると感じた。また、うちで実施している電話相談の事業が掲載された際にも、すぐに電話がかかってきた。見る人はしっかり見ているのだと思う。

○委員 市政ニュースは、やはり文字が多い。文字が多いと読まれないだろうと考え、私たちが発行している社協の広報紙では、文字を極力減らし、写真などを多用している。このような形でなければ見てもらえないのが現実である。

また、地区の小学校はこれまで紙媒体で学校だよりを発行し、自治会に配布のうえ回覧をしていたが、紙媒体を廃止し、QRコードを用いてホームページを見てもらう形に移行した。若者はスマホでQRコードを読み取ることが多く、情報が届きやすいのだろうと思う。

紙1枚にQRコードだけを載せたものを市政ニュースに挟み込み、「子育てに関する情報はこちら」や「お困りの際はこちら」といった形で、インパクトがあるものが効果的ではないかと考える。実際に読まれていないという経験があり、文字を多く書くことは避けるべきである。

○職務代理 確かに文字は読まれないかもしれない。個人的な意見だが、QRコードだけというのも少し寂しい話だと感じる。

○委員 皆さんがおっしゃるとおり、様々なアイデアを駆使していただきたい。確認できてはいないが、他市では子育て総合センターのような場所が拠点となり、相談事業の時間やイベント情報を頻繁に発信している印象がある。特にインスタグラムを活用していると感じる。

西宮市は毎日のように配信することもあるとのことだが、私自身もチェックしているつもりでも目に留まらないことがあるため、様々な手法を駆使していただきたい。

また、皆さんのご意見のとおり、アナログとデジタルの両方を活用し、何度も広報するしかないのではないかと。

○委員 先ほど●●委員がおっしゃっていた、市を信頼してもらい、いつでも頼ってもらいという広報は非常に重要である。西宮市は子育て支援の事業を豊富に持っているが、それをもっと自信を持って発信すべきである。「これだけやれているまちです」と西宮市自身が積極的に伝えることで、市民も安心してつながることができる。

皆さんが行っていることにもっと自信を持って発信をしていただきたい。私もいろいろ意見を言うが、それは現状からさらにバージョンアップしてほしいという気持ちからであり、今行っている事業はもっと広く届くべきものである。

発信するにあたって、西宮市の顔となるような人や象徴があれば、力強く発信できるのではないかと。

○職務代理 「どんと任せてほしい」という姿勢で進めば良いと思う。誰も取りこぼさないというのは素晴らしいことであり、それを目指すことは重要である。西宮市に住むことで「取りこぼされない」と思ってもらえるようになれば良いと本当に思う。

〔午前11時00分 閉会〕